

別 紙

第53回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 3 分科会	演題番号	309
題 名	ノロウイルス不活化剤の探索とその実用化に関する研究（1） ～紅茶由来成分 テアフラビン類～		
所 属 氏 名	環境衛生科学研究所 ○大場舞、安藤隆幸、荒畑沙織（現 中部健康福祉センター）、池ヶ谷朝香、小和田和宏、川森文彦 国立感染症研究所 岡智一郎、高木弘隆 静岡県立大学大学院 小郷尚久、浅井章良		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>ノロウイルスは感染力が強く、集団感染・食中毒の原因となるため、この対策の強化は公衆衛生上最も重要な課題の一つである。しかし、現在ノロウイルスを完全に不活化する方法として推奨されているのは、次亜塩素酸ナトリウムや加熱による処理のみである。</p> <p>本研究では、3種のヒトノロウイルス代替ウイルスを用い、静岡化合物ライブラリーに登録されている化合物群のスクリーニングを行った。その結果、紅茶ポリフェノールのテアフラビン類が、3種のウイルスに対して抗ウイルス効果を示した。テアフラビン類はウイルス感染の前段において感染阻害作用を示すと考えられることから、ウイルス除去剤として有用な可能性がある。</p>		